

教職員の時間外在校等時間縮減に効果の高い学校の取組状況調査表

市町村名・学校名	日立市立櫛形小学校
----------	-----------

1 時間外在校等時間の状況（教職員の平均値）

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
小学校	28 : 33	34 : 11	40 : 56	34 : 47	28 : 05	30 : 20	18 : 22
	45h超 1 80h超 O	45h超 15 80h超 O	45h超 21 80h超 1	45h超 9 80h超 O	45h超 4 80h超 O	45h超 4 80h超 O	45h超 O 80h超 O

2 学校が主体的に実施する効果が高い取組の概要

【学校業務の削減・縮減に関する取組】

・会議時間の見直し・削減
会議の議案の提出方法を「確認のみ議案」「要協議議案」に分類し、議案ごとに費やす時間を設定し、無駄を省略した。さらに、会議終了時間を設定することで、会議の効率化を図った。
「会議要項」は印刷せず、教職員ファイルサーバーに電子化し格納した。印刷時間が削減され、企画会後の修正及び会議直前の修正も可能にした。会議終了後は、PDF化して教職員ファイルサーバーに保存することとしている。

・週時程表改善による研修時間の確保と事務時間の確保
登校完了時間、授業開始時間を繰り上げた。他に清掃活動を週3回（月水金）に限定し、事務時間を確保した。清掃を行わない日には、教職員が掃き掃除を行っている。

上記の取組により、完全下校時間は5時間授業日で14時15分に、6時間授業日で15時20分となっている。退勤時間（16時35分）までの間、職員会議、事務時間、教材研究の時間を確保している。

・月4回の定時退勤日のを設定
月4回定時退勤日を個人で設定した。定時退勤日には、該当教職員の氏名を職員室前面黒板に掲示して明確にした。お互いに気持ちよく勤務できる、そして退勤できる雰囲気醸成した。3年目の取組になるがほぼ定着した。

・校務支援システム（きんむくん）を活用した勤務時間個票による管理の徹底
担当である教頭が毎月、勤務時間個票を印刷し、職員個別に配布した。超過傾向にあったり、疲労が蓄積傾向にある教職員には、主に校長、副校長が言葉がけを行い、健康管理と疲労回復を促した。

・小学校英語専科授業による担任の教材研究を行う時間確保（5、6年担任週2h、3、4年担任週1h、計24h）

【教職員の意識改革に関する取組】

・改正労働安全衛生法のパフレットの配付及び内容の説明
主に法的視点からの健康管理からの健康管理、労働時間に関し、いつと限定せず機会（職員会議、職員集会、企画会等）を捉えて助言している。法律的根拠での助言が、健康管理意識の向上に良い影響を与えている。

・教員評価の面談実施における状況把握
学校解錠時間、施錠時間、月間超過勤務時間をもとにして、教員評価面談とは別に主に校長が健康管理とその維持の大切さ、超過勤務時間の短縮等について助言、指導を行っている。

・勤務時間個票を確認することを通じた在校時間の見える化
勤務時間個票や累積表を確認することで、在校時間の縮減をねらいとした各自の在校時間の推移を把握することができ、在校時間縮減に関する意識化をさせることができた。

・定時退勤者の掲示による勤務時間縮減についての意識の高揚
月4回各自で設定した定時退勤者名を職員室前面黒板に掲示することで、意識化を図るとともに退勤しやすい雰囲気と人間関係の醸成に努めている。特に、幼児、小学校低学年の子をもつ教職員にとっては働きやすい職場と捉えられている。

・管理職を中心とした健康の保持についての声かけの励行
あらゆる機会（職員会議、職員集会、企画会等）を捉えて、主に校長（不在時は副校長）が健康の管理と維持の大切さについて助言している。

・健康診断、人間ドックの啓発
健康診断の時期には、管理職が県費事務職員と連携し、健康診断の申込状況を把握している。極力受診100%を目標に申込を行うように声かけを行っている。健康一覧については、個人情報であるため、校長から教職員に手渡しを行うようにしている。結果内容に触れて助言することは難しいので、普段の観察に生かしている。なお、要治療等の診断を受けた教職員に対しては、受診の確認を行っている。

【その他時間外の原因分析・解消に関する取組】

【原因分析】

・効果的な教育活動を進める上で、子どもについての情報交換、教材研究等を行っているのは良い。しかし、同じ年代で行っていることが多いため、同年代の話題に花が咲くことも少なくない。人間関係の醸成、情報交換の視点からはたいへん有効である。併せて超過勤務と健康管理の視点からの意識の変容を促したい。

【解消に関する取組】

・学校最終施錠時間の設定や職員の健康の管理、維持のための在校時間の縮減について、普段の助言に含めて気づかせていく。